

平成20年4月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

上旬の前半は東・西日本で晴れの日が多くなりました。後半は北日本で晴れの日が多くなりましたが、東日本の太平洋側では低気圧の影響で大雨となりました。中旬は低気圧が本州の南岸沿いを通過することが多く、北日本を除き曇りや雨の日が多くなりました。下旬は東・西日本は高気圧におおわれ晴れる日が多くなりました。その他の地方では天気が周期的に変わりました。

月を通しての日照時間は、沖縄・奄美で少なくなりました。降水量は北日本の日本海側ではかなり少なく、東日本の太平洋側ではかなり多くなりました。月平均気温は北日本でかなり高く、東日本と西日本では高くなりました。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年（注）より11ポイント高い79%でした。例年と比べて各地方とも10ポイント以上高くなったところが多く、北海道地方では21ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.3小さい2.6で、ほぼ全国的に小さくなり、東海では0.7、北陸では0.8小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は全国平均では例年より0.4小さい1.9で、特に東海、北陸、九州北部、九州南部地方では0.6から0.7小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報から】

4月26日、本州付近は日本海をゆっくり東北東進する低気圧から南南東にのびる気圧の谷が通過し（図1）、東日本の広い範囲で雨が降りました。一方、週間天気予報では7日前（19日発表）から3日前（23日発表）まで、この日の天気を「くもり時々晴れ」と予報しました。

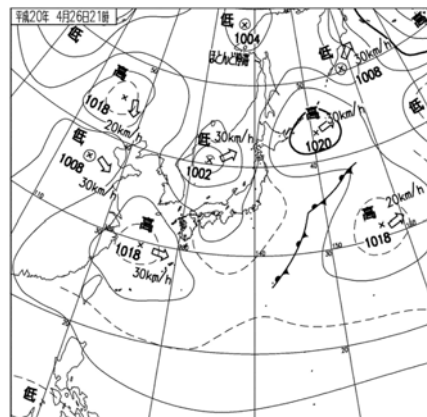


図1 平成20年4月26日21時の地上天気図

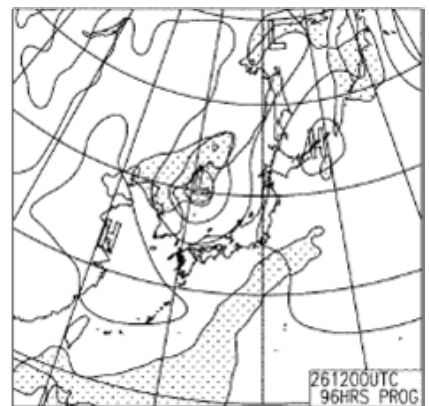


図2 平成20年4月23日（3日前）の予報で使った26日21時の予想資料：水玉模様は降水を予想した範囲

図2は23日(3日前)発表の予報で使用した予想図で、実況(図1)と同じように気圧の谷の通過を予想しましたが、これが関東地方に雨をもたらす可能性は小さいと考えました。しかし、この気圧の谷に発生した小さな低気圧が東海地方の各地に雨を降らせながら26日夕方頃に関東地方に達し、東京地方も雨になりました(図3)。

現在のところ、このような小さな低気圧による雨を数日前から精確に予報することは難しい場合が多いです。

No	時刻 観測所名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	日合計	日最大		日最大		
																											1時間降水量		10分間降水量		
																											最大	時分	最大	時分	
44046	小沢内	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	1.0	1930			
44051	小沢	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	2.0	1900			
44056	香梅	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	2.5	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	6.0	3.0	1923	1.5	1845	
44076	鎌野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	-			
44112	八王子	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	4.0	1.5	1831	0.5	2014	
44116	府中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	1.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	4.5	1.5	2204	1.0	2114	
44126	世田谷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	1.5	1.0	2130			
44132	東京	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	1.0	1.0	2144	0.5	2115	
44136	新木場	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	1.0	0.5	-		
44166	羽田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	-			

図3 平成20年4月26日の東京地方におけるアメダスの毎時降水量(mm)

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

6月にはそれまで日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上して本州付近に停滞することが多くなり、本州付近では例年6月半ば頃までに各地で梅雨に入ります。一方、南西諸島では6月下旬に梅雨が明けます。梅雨前線が停滞すると曇りや雨の日が続き、時には大雨となって土砂崩れや河川の氾濫などの災害を引き起こします。また梅雨前線の北側にあたる地方ではオホーツク海高気圧から吹き出す冷たい北東の風の影響で、太平洋側の地方を中心に低い雲に覆われて曇り、気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、低温や日照不足によって農作物の生育不良などの冷害を引き起こします。

2002年の6月は関東甲信地方では11日ごろに梅雨入りした後、気温も下がって曇りや雨の日が続きました(図4)。梅雨のない北海道でもオホーツク海高気圧の影響で気温が下がり、下旬には北海道各地で霜による被害が発生しました。沖縄地方は21日ごろ梅雨明けして、下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れる日が続き日平均気温も30近い日が続きました。

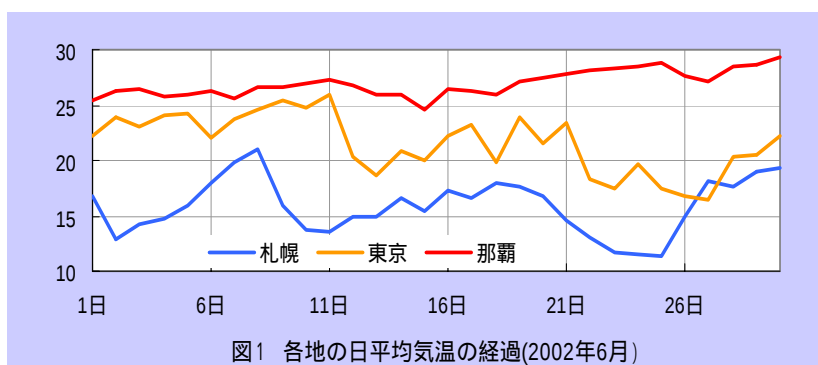


図1 各地の日平均気温の経過(2002年6月)

日	1	6	1	1	2	2
札幌	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️
東京	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️
那覇	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️

図4 各地の日中の天気経過(2002年6月)

梅雨前線の位置が南北に変動することで、各地の天気や気温は大きく変わります。週間天気予報から向こう1週間の天気や気温の傾向を把握して健康管理や農作物の管理に活用して下さい。